

表紙解説 スズメノテッポウ（左）とセトガヤ（右）の見分け方

イネ科の一年草であるスズメノテッポウとセトガヤは、どちらも春先の水田や畔に群生して花を咲かせます。姿かたちもそっくりなのでまぎらわしいですが、慣れれば区別は簡単！ここでは、2種の識別方法をご紹介します。

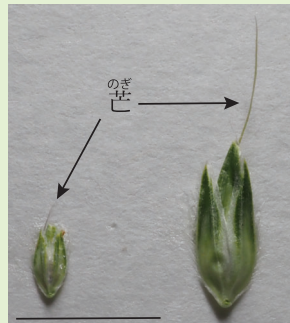
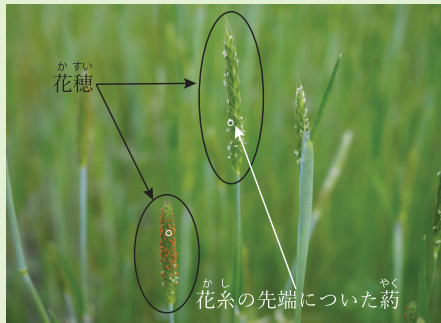
1つ目の識別ポイントは、花の大きさです。どちらも小さな花（小穂：しょうすい）が集まって円柱状の穂（花穂：かすい）を形成するのですが、小穂、花穂ともにセトガヤの方が大きいことが写真から分かります。また、小穂の先端から芒（のぎ）という棘状の突起が飛び出ており、この芒もセトガヤの方が断然長く伸びます。

2つ目の識別ポイントは、葯の色です。葯とは、おしべの先端につく花粉の入った袋のことです。スズメノテッポウもセトガヤも小穂から飛び出た糸のような構造（花糸）の先に葯が垂れ下がるのですが、前者の葯はオレンジ色、後者は白色です。

それぞれの識別方法を確認したところで、ぜひ近くの田んぼで2種を見比べてみてください！・・・と言いたところなのですが、実は、県内で両種が混生している田んぼはそれほど多くありません。スズメノテッポウは水田だけでなく比較的乾いた畑でも見られる普通種なのですが、セトガヤが生育するのは、無農薬の水田や遷移が進んでいない湿った休耕田など自然度の高い環境に限られ、県内全域で数を減らしています。そのため、最新の埼玉県レッドデータブックでは、準絶滅危惧種に位置付けられています。

表紙の写真は、秩父郡皆野町のある休耕田で撮影しました。両種が一面にびっしりと混生しており、その光景に圧倒されました。近年、宅地開発や農家の担い手不足により、水田そのものが減少しています。こうした環境が減っていくことを想うと、少し寂しい思いです。

（岩浪 創／学芸員）



写真左
スズメノテッポウ（左）と
セトガヤ（右）

写真右
スズメノテッポウ（左）と
セトガヤ（右）の小穂
スケールバーは5mm

展示のお知らせ（10月～3月）

	タイトル	期間	内容
企画展	外来生物 in 埼玉！	6月29日(土)～ 10月14日(月・祝)	埼玉県内で発見されている外来生物の標本を展示し、特徴や法律で決められた取扱いのルールなどについて解説します。
企画展	長瀬自然遊覧	10月26日(土)～ 2025年2月24日(月)	国の名勝及び天然記念物に指定されてから100周年を迎える「長瀬」の魅力を改めて紹介します。
特別展	秩父鉱山の面影 ～ニッチツが所蔵した稀代の鉱物標本群～	2025年3月8日(土)～ 6月15日(日)	令和4年に石灰岩事業を停止した秩父鉱山の歴史をたどりながら、(株)ニッチツ秩父事業所より寄贈を受けた100点余りの標本群を展示します。
トピック展	標本制作の技（動物編）	10月8日(火)～ 2025年2月2日(日)	はく製や骨格標本等、様々な動物標本の種類とつくり方を紹介します。
トピック展	埼玉の森をつくる木たち	2025年2月4日(火)～ 6月15日(日)	第75回全国植樹祭埼玉2025において、天皇・皇后両陛下がお手植えされる樹種について、生態や県内の分布、利用などを紹介します。

※開館時間：9：00～16：30（7・8月は17：00まで） 入館は閉館30分前まで

※休館日：月曜日（祝日、振替休日は開館）・12/29～1/3 ・資料整理のため休館：2025年1/27(月)～31(金) その他、臨時休館あり

※その他イベントについては、リーフレット（展示・イベント案内）又はホームページ（<https://shizen.spec.ed.jp/>）をご覧ください